

教科(科目)	国語（現代の国語）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	東京書籍『精選現代の国語』				
副教材等	桐原書店『新版完全征服頻出 入試漢字コア2800』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

3 指導の重点

① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得を目指します。 ② 文章を的確に理解した上で、自分の考え方を確立させることを目指します。 ③ さらにそれらを的確に表現し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に積極的に関わり、進んで読書に親しみ自己を向上させる態度を養おうとしている。
---------------------------	--	--

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、漢字テスト等の確認テストの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・発表の様子、振り返りシート、課題の提出などの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	自己の体験に照らしながら評論を読み、読書や対話の持つ創造性について考える	1 「C 読むこと」	松村圭一郎「まだ知らない自分に会おう」	・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書く。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえ、内容や構成、論理の展開などについて把握する。 ・自分のエピソードを簡潔にまとめ、話し合う。	1	定期考査(内容の分析) ノート(記述の点検) 発表の様子(行動の確認) 振り返りシート(記述の確認)
	目的や相手に合った分かりやすい説明をする。	2 「A 話すこと・聞くこと」	分かりやすい説明をする	・実社会に必要な語句の量を増やすとともに、その適切な使い方理解する。 ・テーマを設定し、分かりやすく説明する。	2	ワークシート(記述の確認) 発表の様子(行動の確認)
	情報を分かりやすく整理し、表現を検討して手順書を書く。	4 「B 書くこと」	手順を整理して正確に伝える	・手順書を作成した例を参考に、手順書の作り方を理解する。 ・手順書を作成するのに必要な情報を整理し、表現を検討する。 ・検討内容を踏まえて、手順書を作成する。	4	ワークシート(記述の確認) ワークシート(記述の確認) 振り返りシート(記述の確認)
5	「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。	2 「C 読むこと」	山崎正和「水の東西」	・「鹿おどし」(日本人)と「噴水」(西洋人)の水に対する捉え方の違いを理解する。 ・日本文化について興味や関心を持ったことを、スピーチする。	2	定期考査(内容の分析) ワークシート(記述の確認) 振り返りシート(記述の確認)
	中間考査				1	
	図書館の利用法を学び、適切に利用できるようにする。	3 「A 話すこと・聞くこと」	図書館の利用法	・情報を検索するための図書館の利用法について、確認する。 ・「課題」の中から一つを選び、発送を広げて整理し、発表する。	3	ワークシート(記述の確認) 発表の様子(行動の確認)

6	読んだ文章から問いを作り、構成を工夫して意見をまとめる。	4 「B 書くこと」	新聞記事をもとに問いを作り、意見をまとめる。	- 複数の新聞記事に目を通し、興味のある新聞記事を選ぶ。 - 選んだ記事の内容を整理する。 - 問い作りのルールを確認する。 - ワークシートを活用し、選んだ問いをもとに意見をまとめ、意見文を書く。	4	振り返りシート（記述確認） 意見文（記述の確認）
	他言語と比較することで言葉の意味の在り方を理解し、言葉に関心を持って言語生活を豊かにする。	2 「C 読むこと」	今井むつみ「言葉は世界を切り分ける」	- 具体例と筆者の主張の関係を押さえる。 - 外国語でコミュニケーションを取ることの難しさについて、具体的にまとめる。 - 言葉の働きについて、筆者の主張を踏まえて、考えたことをまとめる。	2	定期考査（内容の分析） ノート（記述の点検）
	期末考査				1	
7	話の構成や、紹介の仕方を工夫して話す。	4 「A 話すこと・聞くこと」	本を紹介する。	- 紹介する本のジャンルを選択する。 - ジャンルごとに班を作り、各自で紹介の準備や練習をする。 - 選んだ本を班の中で紹介し合い、班として紹介する本を決める。	4	ワークシート（記述の確認） 振り返りシート（記述の確認） 発表の様子（行動の確認）
8 9	情報の信頼性を吟味し、伝える相手や目的に応じてまとめる	4 「B 書くこと」	調べた情報を説明資料にまとめる。	- 説明資料の作り方を理解する。 「課題」から一つを選び、どのような説明資料を作るかを決める。 - ワークシートにまとめていく。 - 伝える相手を意識し、文章を整え、完済させる	4	ワークシート（記述の確認） 振り返りシート（記述の確認）
	時間と自由の関係についての筆者の主張を的確に読み取り、必要に応じてその内容を要約する。	2 「C 読むこと」	内山節「時間と自由の関係について」	- 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉える。 - 筆者の主張を要約し、その主張に対する自分の考えを書く。	2	定期考査（内容の分析） ノート（記述の点検） 振り返りシート（記述の確認） 意見文（記述の確認）
	中間考査				1	
10	「自立」の在り方について考察する評論を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。	2 「C 読むこと」	鷲田清一「真の自立とは」	- 筆者の主張する「自立」について、現代社会で混同して使われて居る「独立」という言葉との違いも踏まえて読み取り、まとめる。 「私たちが・・・真の自立を身につけていくことではないでしょうか。」という筆者の問いかけについて、考えたことを六百字程度の文章にまとめる。	2	定期考査（内容の分析） ノート（記述の点検） 振り返りシート（記述の確認） 意見文（記述の確認）
	読み比べて考える明確にし、伝わりやすい構成で書く。	4 「B 書くこと」	異なる主張の文章を読み比べて自分の意見を書く。	「読書について書かれた文章」A～Cを読み比べて、例を参考に自分の意見を書く方法を理解する。 「課題」の中から一つを選び、テーマに沿った本を図書館で3冊程度探す。 「構成案の例」を読み、メモを参考にしながら、意見文の構成を考える。 - 決めた構成文をもとに、意見文を完成させる。	4	ワークシート（記述の確認） 振り返りシート（記述の確認） 意見文（記述の確認）

	話し合いの進め方を工夫し、考えを深める。	2 「A 話すこと・聞くこと」	情報を整理しながら話し合う	- 話し合いには種類があることを理解する。 「課題」から一つを選び、グループで進め方を確認する。 - グループごとに、話し合いの結果をクラス全体に発表する。	2	ワークシート（記述の確認） 振り返りシート（記述の確認） 発表の様子（行動の確認）
11	事例に即して内容を正確に読み取り、遺伝システムにおける変異の意義を理解する。	2 「C 読むこと」	.中屋敷均『無駄』と進化	「現代の進化学」の教えと、「通常イメージされている、適応的な変化」との違いを理解する。 「無駄」な変異を起こし、筆者が考える「許容すること」の大切さと、その理由を読み取り、まとめる。	2	定期考査（内容の分析） ノート（記述の点検） 振り返りシート（記述の確認）
	論点を整理して論証し、レポートの形式で書く。	5 「B 書くこと」	論証してレポートを書く	- レポートの種類を理解し、例を参考に、レポートの書き方を確認する。 - 選んだテーマに対して、百科事典やインターネット等を活用して予備調査を行う。 - 例を参考に、問いをいくつか立てる。 「論証の方法」を理解する。 - 考えてきたことをもとにレポートを書く。	5	ワークシート（記述の確認） 振り返りシート（記述の確認） レポート（記述の確認）
	期末考査				1	
12	発表の仕方や、話の聞き方を工夫する。 探究学習の概要を理解する。	4 「A 話すこと・聞くこと」	.探究したことを発信する	- 探究学習のステップと、その内容を確認する。 - さまざまな発表の形式を理解する。 「課題」の中から一つを選び、グループごとに取り上げるテーマを設定する。 - 調査内容を模造紙などにまとめ、ポスターを作成する - グループごとに発表する。	4	ワークシート（記述の確認） 課題提出（内容の確認） 振り返りシート（記述の確認） 発表の様子（行動の確認）
1	「白」に表される、情報に対する意識についての筆者の考えを、独自の表現に注意して読み取る。 書かれている内容を理解し、「白」を読み深める。	1 「C 読むこと」 3 「B 書くこと」 2 「A 話すこと・聞くこと」	原研哉「白」	「推敲」という美意識を手がかりに筆者の言う「白」という感受性とはどのようなものかを読み取り、まとめる。 『徒然草』の例によって示された「白」の持つ意味を、本文の趣旨をもとに読み取り、まとめる。 - 筆者の言う「白」という感受性とインターネット時代の感受性を比較し、意見文を書く。 - クラスの生徒にわかりやすく発表する。	6	定期考査（内容の分析） 課題提出（内容の確認） 振り返りシート（記述の確認） 意見文（記述の確認） 発表の様子（行動の確認）
2 3	学年末考査				1	
	言語について考える	1 「C 読むこと」 3 「B 書くこと」 2 「A 話すこと・聞くこと」	池上嘉彦「ものとし記号」	- 筆者が何を問題にしているのかを読み取る。 - 既習の今井むつみ「言葉は世界を切り分ける」と比較する。 - 比較して読み取ったことをまとめる。 - まとめたものに対して、自分の意見を書く。 - クラスの生徒に対して、意見を発表する。	6	ワークシート（記述の確認） ノート（記述の点検） 意見文（内容の確認） 発表の様子（行動の観察） 振り返りシート（記述の確認）

計 64 時間 (55 分授業)

領域ごとの 授業時数合計	A 「話すこと・聞くこと」 19 時間	B 「書くこと」 27 時間	C 「読むこと」 13 時間
-----------------	------------------------	-------------------	-------------------

7 課題・提出物等

- ・毎週末の課題、毎月の確認テスト範囲は別途指示します。
- ・单元ごとに振り返りシートを記入し、提出します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

言葉には、認識や思考を支える働きがあります。実社会に必要な知識や技能を身に付け、論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力をつけましょう。言語表現を通して他者や社会に積極的に関わり、進んで読書に親しみ、自己を向上させる姿勢を養いましょう。

(担当：勝海・井上)

教科(科目)	国語（言語文化）	単位数	2単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	東京書籍『精選言語文化』				
副教材等	桐原書店『解析古典文法』四訂版 第一学習社『古典文法完全マスターノート』（用言編） 桐原書店『漢文必携』五訂版				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

- ① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得を目指します。
- ② 文章を的確に理解した上で、自分の考え方を確立させることを目指します。
- ③ 言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に積極的に関わろうとする態度を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	・近代以降の文章や古典の文章を読むことにおいて、我が国の言語文化の特徴を知り、それらの文化的背景を理解することによって、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、異文化との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に積極的に関わり、生涯にわたって進んで読書に親しみ自己を向上させる態度を養おうとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、漢字テスト等の確認テストの分析 などから判断します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、意見文、提出物などの内容の確認 などから判断します。	以上の観点を踏まえ、 ・発表の様子、振り返りシート、課題の提出などの内容の確認 などから判断します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	恋愛をテーマに詠まれた短歌とそれに対する筆者の理解に注意して、随筆を読み味わう。	3 「B 読むこと」 (現代文)	東 直子「言葉を届ける」	・常用漢字の読み方に慣れ、主な常用漢字を書く。 ・それぞれの短歌に詠まれた愛の在り方に注意しながら、本文を把握する。 ・最終段落の「普遍的な願い」とはどのようなものかを考え、まとめる。	3	定期考査(内容の分析) ノート(記述の点検) 振り返りシート(記述の確認)
	歴史的仮名遣いについて理解し、説話のおもしろさを読み取る。	4 「B 読むこと」(古文)	『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」	・説話というジャンルについて理解する。 ・歴史的仮名遣いなど古文特有の表現などを理解する。 ・ストーリーのおもしろさを理解し、それを表現する。	4	定期考査(内容の分析) ノート(記述の点検) 振り返りシート(記述の確認)
5	漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。	3 「B 読むこと」 (漢文)	訓読の基本	・漢文とは日本語と言語構造が異なるものであり、その漢文を日本語として読む工夫が訓読であることを理解する。 ・漢文の基本構造と、訓読に関する基本的な知識について確認する。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解し、それをまとめる。	3	定期考査(内容の分析) ノート(記述の点検) 振り返りシート(記述の確認)
	中間考査				1	

	随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。	3 「B 読むこと」(古文)	『徒然草』「ある人、弓射ることを習ふに」	- 全文を音読し、話のあらすじを読み取る。 - 第一段落と第二段落の関係を理解する。 - 主題を考えて、それをまとめる。	3	定期考査 (内容の分析) ノート(記述の点検) 振り返りシート(記述の確認)
6	極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題について考える。	4 「B 読むこと」(現代文)	芥川龍之介『羅生門』	- 全文を通読し、時代背景を考える。 - 場面の变化に注意して、本文全体を四つの意味段落に分ける。 「下人」の内面の変化を、変化のきっかけと関連づけながら、整理する。 - 小説の主題について、自分なりに考えて発表する。	4	定期考査 (内容の分析) ノート(記述の点検) 振り返りシート(記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
	古典を元にして作られた作品を原作と読み比べ、理解を深める。	2 「B 読むこと」(現代文)	翻案作品を原作と読み比べる	『今昔物語集』と『羅生門』を比較し、分析する。 - 分析したものを、グループで発表する。	2	ノート(記述の点検) 振り返りシート(記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
	期末考査				1	
7	故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文の読解に慣れ親しむ。	2 「B 読むこと」(漢文)	故事成語「推敲」	- 本文を繰り返し音読し、再読文字に注意して書き下し文にする。 - 脚注を参照して現代語訳し、内容を理解する。 - 辞書や国語便覧などを用い、他の故事成語にもふれ、日本語において故事成語が果たす役割を考え、まとめる。	2	定期考査 (内容の分析) ノート(記述の点検) 振り返りシート(記述の確認)
	作品の内容を自分と関係づけながら、ものの見方、感じ方、考え方を深める。	2 「B 読むこと」(古文)	『枕草子』「ありがたきもの」	「ありがたし」の意味を辞書で確認し、この章段での意味を、列挙されているものから考える。 - 作者の考えを踏まえて、自分にとっての「ありがたきもの」を書き出してみる。	2	定期考査 (内容の分析) ノート(記述の点検) 振り返りシート(記述の確認)
8 9	リズムや形式に注意して詩を読み味わい、「ふるさと」に対する作者の心情について考える。	2 「B 読むこと」(現代文)	室生犀星「小景異情」	- 文語詩独特の表現やリズムについて理解し、全体の意味を捉える。 「ふるさと」への作者の思いを考え、それをまとめる。	2	定期考査 (内容の分析) ノート(記述の点検) 振り返りシート(記述の確認)
	歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉える。	4 「B 読むこと」(古文)	『伊勢物語』「東下り」	- 本文を通読し、旅の行程に注目しながら三つの場面に分ける。 - 主人公の「男」が「東下り」をするに至った事情を理解し、その男の心情を考える。 「唐衣・・・」の歌に用いられた和歌の修辭を理解し、歌に込められた心情を考えて書く。	4	定期考査 (内容の分析) ノート(記述の点検) 振り返りシート(記述の確認)
	中間考査				1	

10	話の展開や登場人物の言動を読み取り、寓話に込められた意図について考える。	2 「B 読むこと」 (漢文)	寓話「塞翁馬」	・「禍」「福」に対する「塞翁」と周囲の人々との捉え方に注意して現代語訳する。 ・寓話に込められた意図を考え、書く。	2	定期考査（内容の分析） ノート（記述の点検） 振り返りシート（記述の確認）
	表現の特色を踏まえて、作品に込められた意図を考える。	5 「B 読むこと」(古文)	『土佐日記』『馬のなまけ』	・この作品の表現の特色を考える。 ・この章段に書かれた旅立ちの様子を読み取る。 ・冒頭の一文から、作者がどのような日記を書こうとしているかを考え、まとめる。	5	定期考査（内容の分析） ノート（記述の点検） 振り返りシート（記述の確認）
11	描かれた状況を考えながら、文を読み、作者の主張について考える。	2 「B 読むこと」 (漢文)	文「雑説」	・本文を書き下し文にし、現代語訳する。 ・作者は「伯樂」と「千里馬（名馬）」の比喻によって何を主張しようとしたのか、考えて書く。	2	定期考査（内容の分析） ノート（記述の点検） 振り返りシート（記述の確認）
	主人公の心情の変化と、富士山や周囲の人々についての描写に注意して、小説を読み味わう。	4 「B 読むこと」 (現代文)	太宰治『富嶽百景』	・国語便覧などを見て、太宰治についておおよその知識を得る。 ・周囲の人々との触れ合いを通じて、「私」がどのように影響を受け、心情を変化させていったかについて考え、まとめる。 ・「富士」が果たした役割や主題について考える。	4	定期考査（内容の分析） ノート（記述の点検） 振り返りシート（記述の確認）
	地域の文学碑を調べ、集めた資料を吟味し、整理する。	1 「A 書くこと」	文学碑を調べる	・自分が住む地域にはどのような文学碑があるかを調べる。 ・興味を持った文学碑について調べ、整理する。	1	ノート（記述の点検） ワークシート（記述の確認）
	期末考査				1	
12	和歌に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取る。	4 「B 読むこと」(古文)	『万葉集』 『古今和歌集』 『新古今和歌集』	・それぞれの歌について、詠まれた状況や和歌の修辞を確認し、作者の心情を考え、まとめる。 ・国語便覧などを用いて、それぞれの歌の傾向の違いについて調べ、まとめる。 ・「小倉百人一首」に親しむ。	4	定期考査（内容の分析） ノート（記述の点検） 振り返りシート（記述の確認） 発表の様子（行動の確認）
1	漢詩に描かれている情景や心情を読み取り、優れた表現に親しむ。	3 「B 読むこと」 (漢文)	絶句と律詩一八首	・漢詩のきまりについて理解する。 ・それぞれの詩の詩形と押韻および対句を確認する。 ・それぞれの詩を音読し、書き下す。 ・日本の和歌との違いについて考え、まとめる。	3	定期考査（内容の分析） ノート（記述の点検） 振り返りシート（記述の確認）
	作り物語に表れた多様な思いを、叙述を基に的確に捉える。	3 「B 読むこと」(古文)	『竹取物語』『天の羽衣』	・国語便覧などを用いて、作品の文学史的意義を理解する。 ・敬語の種類とその用法について確認する。 ・当時の人々のどのような思いが読み取れるかを考え、まとめる。	3	定期考査（内容の分析） ノート（記述の点検） 振り返りシート（記述の確認）
2 3	学年末考査				1	

さまざまな時代の恋の歌を読み比べて、ものの見方、感じ方、考え方を深める。	2 「B 読むこと」 (現代文)	恋の歌を読み比べる	・どのような恋の気持ちが詠まれているかを読み取り、共通点や相違点をまとめる。	2	ノート(記述の点検) 振り返りシート(記述の確認)
自分の感じたことや伝えたいメッセージなどを、古典的技法に倣って短歌にし、効果的に書く。	3 「A 書くこと」	短歌を作る	・既習の『伊勢物語』『東下り』の「唐衣・・・」の歌で、「折り句」の技法について確認する。 ・決めた五音が各句の頭に来るように短歌を作り、推敲する。 ・それぞれが作った短歌をまとめ、クラスで短歌集を作成する。	3	ノート(記述の点検) 振り返りシート(記述の確認) 作成の様子(行動の観察)
元の漢詩の魅力が効果的に伝わるように、表現を工夫して訳詩を書く。	1 「A 書くこと」	訳詩を書く	・好きな漢詩を選んで書き下し、自分の言葉で訳詩を書き、推敲する。	1	ノート(記述の点検) 振り返りシート(記述の確認) 作成の様子(行動の観察)

計 64 時間 (55 分授業)

領域ごとの授業時数合計	A 「書くこと」 5 時間	B 「読むこと」(古典) 37 時間	B 「読むこと」(近代以降) 17 時間
-------------	------------------	-----------------------	-------------------------

7 課題・提出物等

- ・毎週末の課題、毎月の確認テスト範囲は別途指示します。
- ・单元ごとに振り返りシートを記入し、提出します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「言葉」は時代を超えてリレーされ、培われてきました。他者の言葉、他の国の言葉、過去の言葉を受け止めながら、自らの感性や言語感覚を磨いていきましょう。言語文化の担い手として、「言葉」のリレーを走るために。バトンは、今まさに皆さんの手の中にあります。

(担当：井上・勝海)

教科(科目)	地理歴史（地理総合）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年（必修）
使用教科書	帝国書院 『新地理総合』 帝国書院 『新詳高等地図』				
副教材等	とうほう『新編地理資料 2025』 啓隆社『地理総合演習ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを次のとおり目指します。 (1) 世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などの知識や、地図や地理情報システムなどを用い、地理的な情報を調べまとめる技能を身につける。 (2) 地理的な事象を多面的・多角的に考察する力、地理的な課題の解決に向けて構想する力、考察、構想したことを説明したり、議論したりする力を育てる。 (3) 日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚を持ち、地理的な課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

3 指導の重点

(1) 基礎的・基本的な知識の理解と定着を目指すとともに、読図力、統計やグラフの活用力に加え、それらの表現や発表の力を身に付けることを目指します。 (2) 地理的事象について興味・関心を深め、課題に対する考察力や表現力を身に付けることを目指します。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識>世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解できる。 <技能>地図や地理情報システムなどを用い、地理的な情報を調べまとめる技能を身に付けている。	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力、地理的な課題を把握して、解決に向けて学習したことを基に複	地理的な課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の多様な生活文化を尊重すること

	数の立場や意見を踏まえて構想できる力や、考察、構想したことを説明したり、議論したりする力を身に付けている。	の大切さについての自覚などを深めようとしている。
--	---	--------------------------

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査・小テストの分析 ・レポートやワークシートの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査・小テストの分析 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・授業時における発言・グループ活動における役割などの確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	1 地球上の位置と時差 2 地図の役割と種類 3 現代世界の国家と領域	5	時差 地球儀と地図 地理情報システム (GIS) 国家と領域	- さまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。 - さまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。 - 地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。 - 地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	a	ワークシート
5	4 グローバル化する世界 5 世界の地形と人々の生活	7	国家間の結び付き 貿易、交通・通信、観光 大地形・小地形 地形と人々の生活	- 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。 - 世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 - 世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 - 生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	a b	定期考査 小テスト

6	6 世界の気候と人々の生活	9	気候要素と気候因子 大気の大循環 ケッペンの気候区分	・気候が生活に与える影響について理解している。 ・気候が生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・気候が生活に与える影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	b c	
7	7 世界の言語・宗教と人々の生活	7	世界の言語 世界の宗教	・言語・宗教と人々の生活への影響について理解している。 ・言語・宗教と人々の生活への影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・言語・宗教と人々の生活への影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	b c	定期考査 小テスト レポート
8 9	8 歴史的背景と人々の生活 9 世界の産業と人々の生活	6	植民地支配の影響（ラテンアメリカ・アフリカ） 世界の農業 世界の工業	・産業（農業・工業）の発達とその課題について理解している。 ・産業（農業・工業）の発達とその課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・産業（農業・工業）の発達とその課題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	a b	定期考査 小テスト
10	1 0 複雑に絡み合う地球的問題 1 1 地球環境問題 1 2 資源・エネルギー問題	6	地球的問題とその解決 環境問題 世界のエネルギー・鉱山資源	・地球環境問題の種類、地球環境問題の背景について理解している。 ・地球環境問題の種類、地球環境問題の背景について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・地球環境問題の種類、地球環境問題の背景について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	a b c	ワークシート グループ活動
11	1 3 人口問題	6	世界の人口 世界の人口問題	・発展途上国の人口問題、先進国の人口問題、人口移動と移民について理解している。 ・発展途上国の人口問題、先進国の人口問題、人口移動と移民について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・発展途上国の人口問題、先進国の人口問題、人口移動と移民について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	a b	
12	1 4 食料問題 1 5 都市・居住問題	6	世界の食料問題 世界の都市 世界の都市・居住問題	・発展途上国の都市・居住問題、先進国の都市・居住問題について理解している。 ・発展途上国の都市・居住問題、先進国の都市・居住問題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・発展途上国の都市・居住問題、先進国の都市・居住問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	a	定期考査 小テスト

1	1 6 日本の自然環境 1 7 地震・津波と防災 1 8 火山災害と防災	6	日本の地形、日本の気候 地震・津波と防災 火山災害と防災	・地震・火山のメカニズム、被害の特徴、防災の取り組みについて理解しており、地理的技能を身に付けている。 ②地震・火山のメカニズム、被害の特徴、防災の取り組みについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地震・火山のメカニズム、被害の特徴、防災の取り組みについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	a b	
2 3	1 9 気象災害と防災 2 0 自然災害への備え 2 1 生活圏の調査と地域の展望	6	水害と防災 減災の取り組み 地域調査	・生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解している。 ・生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ・生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	c	定期考査 レポート発表

計64時間(55分授業)

7 課題・提出物等

- ・单元ごとに定期考査・課題考査・小テストを行う。
- ・長期休業時に課題・ワークシートを提出（別途指示）。
- ・主題を設定したレポート作成・発表を行う。

8 担当者からの一言

地図や地理情報システム（GIS）で捉える現代世界、国際理解と国際協力、持続可能な地域づくりとわたしたちについて学びます。最初に、地図や地理情報システム（GIS）で捉える現代社会では地理情報システムで2枚の地図を重ね合わせて地理的事象の分布の傾向性や規則性を理解したり、地理的な見方・考え方を習得します。そして、国際理解と国際協力では地理的な見方・考え方を活用しながら現代の国際的な課題を理解し、どのように国際協力を行っていけるか考察をします。さらに、持続可能な地域作りとわたしたちでは、地域の課題を考察し課題解決に向け構想します。地理では世界の構造を捉えていくことを心掛けてください。世界の構造を把握すると未知の地理的事象（まだ行ったことのない知らない土地で行われていること）を類推することが可能となります。世界という空間の構成を捉え、世界を想像できるグローバルに活躍できる力を身につけることを目指します。

教科(科目)	地理歴史（歴史総合）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年(必修)
使用教科書	山川出版社『歴史総合』近代から現代へ				
副教材等	浜島書店『新詳歴史総合』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを次のとおり目指します。 (1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と日本を相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる知識・技能を身につける。 (2) 多様性を認め合う社会の構築に向けて、積極的に他者とコミュニケーションを図り、思考力・判断力を育てる。 (3) 世界の歴史のなかから日本の歴史を理解するとともに、グローバル化する国際社会の課題を自ら見だし、その解決策を主体的に考える力を養う。

3 指導の重点

(1) 基礎的・基本的な歴史の知識の理解と定着を目指すとともに、史料の読解力、統計やグラフの作成と活用力に加え、それらの表現や課題解決の力を身につけることを目指します。 (2) ICT機材をはじめとした教材を利用し、歴史的な事象について興味・関心を深め、課題に対する考察力や表現力を身につけることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。 <技能>諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につけている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができる。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	・定期考査・小テストの分析 ・レポートやワークシートの内容の確認	・定期考査・小テストの分析 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認	・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・授業時における発言・グループ活動における役割などの確認
	学習単元ごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	1 結びつく世界	5	18世紀のアジアや日本における生産と流通 アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易	・18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響を考える。	a	ワークシート
5	2 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	7	産業革命と交通手段の革新 中国の開港と日本の開国	・産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響を理解する。 ・アジア諸国と欧米諸国との関係の変容を考察する。	a b	定期考査 小テスト
6	3 明治維新と日本の立憲体制	7	18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向 日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定など	・立憲体制と国民国家の形成について理解する。 ・政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容を考察する。	a b	
7	4 帝国主義の展開とアジア	7	列強の進出と植民地の形成 日清戦争・日露戦争など	・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響を考察する ・主題を設定し、諸資料を活用して、追究したり解決したりする。	b c	定期考査 小テスト レポート
8 9	5 第一次世界大戦と大衆社会	7	第一次世界大戦の展開 ナショナリズムと国際連盟 大正デモクラシーと政党政治	・第一次世界大戦の推移と世界に与えた影響、日本参戦の背景と影響を理解する。 ・第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連を考察する。	a b	定期考査 小テスト
10	6 経済危機と第二次世界大戦	7	世界恐慌とファシズムの伸張 第二次世界大戦の展開	・第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 ・第二次世界大戦の性格と惨禍、大戦下の社会状況や人々の生活を考察する。 ・主題を設定し、諸資料を活用して、追究したり解決したりする。	a b c	ワークシート グループ活動

11	7 戦後の国際秩序と日本の改革	7	国際連合と国際経済体制 戦後改革と日本国憲法の制定	・第二次世界大戦後の国際秩序の形成が世界に与えた影響を理解する。 ・日本に対する占領政策と国際情勢との関係を考察する。	a b	
12	8 冷戦と世界経済	7	冷戦と国際関係 脱植民地化とアジア・アフリカ諸国 軍備拡張や核兵器	・冷戦が各国の政治・経済に及ぼした影響を理解する。	a	定期考査 小テスト
1	9 グローバル化する世界	5	冷戦の終結 民主化の進展 地域統合の拡大と変容	・冷戦の終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散を理解する。 ・冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割について考察する。	a b	
2 3	10 現代の課題	5	現代的な諸課題	・現代の課題について、歴史的経緯をふまえて主題を設定し、諸資料を活用して、追究し、発表する。	c	定期考査 レポート発表

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 单元ごとに定期考査・課題考査・小テストを行う。
- ・ 長期休業時に課題・ワークシートを提出 (別途指示)。
- ・ 主題を設定したレポート作成・発表を行う。

8 担当者からの一言

歴史科目と聞くと、「歴史は暗記」、「過去の出来事を学んで何の意味があるのだろうか?」という思いを抱いている人も多いかもしれません。イギリスの歴史学者 E. H. カークは「歴史とは、現在と過去との間の尽きること知らぬ対話である。」と述べています。それは、現在の自分と社会のあり方に問いを持ちつつ歴史を学ぶことで、私たちは初めて自らに語りかけてくる存在として過去と対話することができるということです。世界は戦争・紛争・格差・差別などを繰り返しています。みなさんには、現代の社会の問題を解決するために、「歴史総合」をいう科目を通じて過去の歴史と対話してもらいたいと考えています。

(担当：相澤)

令和7年度シラバス（ 数学Ⅰ ） 学番50 新潟県立小千谷高等学校

教科(科目)	数学(数学Ⅰ)	単位数	3単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	新編 数学Ⅰ(数研出版)				
副教材等	3TRIAL 数学Ⅰ+A(数研出版)、数学Ⅰ・A基礎問題精(旺文社)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 指導の重点

- ①基礎的・基本的な知識及び技能を着実に身に付けることを目指す。
- ②事象を数学的に考察する能力を培うことを目指す。
- ③数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てます。
- ④数学を通して、粘り強く物事に取り組む態度を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけている。	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善しようとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、課題考査の分析 ・小テストの分析 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、課題考査の分析 ・小テストの分析 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の取組の観察 ・提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第1章 数と式	第1節 式の計算	7	・定期考査、課題考査 ・小テスト ・週末課題の取り組み状況 ・問題集の取り組み状況
		1 多項式の加法と減法		
		2 多項式の乗法		
		3 因数分解		
5	第1章 数と式	第2節 実数	5	
		4 実数		
		5 根号を含む式の計算		
		第3節 1次不等式	6	
		6 不等式の性質		
		7 1次不等式		
		8 絶対値を含む方程式・不等式		
		課題学習	1	
6	第3章 2次関数	第1節 2次関数とグラフ	11	・定期考査、課題考査 ・小テスト ・週末課題の取り組み状況 ・問題集の取り組み状況
		1 関数とグラフ		
		2 2次関数のグラフ		
		第2節 2次関数の値の変化	7	
		3 2次関数の最大・最小		
		4 2次関数の決定		
		第3節 2次方程式と2次不等式	13	
		5 2次方程式		
	第3章 2次関数	6 グラフとx軸の位置関係		
		7 2次不等式		
		課題学習	1	

8	第2章 集合と命題	1 集合	9	・定期考査、課題考査 ・小テスト ・週末課題の取り組み状況 ・問題集の取り組み状況
9		2 命題と条件（命題）		
		3 命題とその逆・対偶・裏		
		4 命題と証明		
10	第4章 図形と計量	第1節 三角比	11	・定期考査、課題考査 ・小テスト ・週末課題の取り組み状況 ・問題集の取り組み状況
		1 三角比		
		2 三角比の相互関係		
		3 三角比の拡張		
11		第2節 三角形への応用		
		4 正弦定理		
		5 余弦定理		
12		6 正弦定理と余弦定理の応用		
		7 三角形の面積		
		8 空間図形への応用		
		課題学習	1	
1	第5章 データの分析	1 データの整理	12	・定期考査 ・小テスト ・週末課題の取り組み状況 ・問題集の取り組み状況
		2 データの代表値		
		3 データの散らばりと四分位数		
		4 分散と標準偏差		
2		5 2つの変量の間の関係		
		6 仮説検定の考え		
3		課題学習	1	

計 96 時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

平日：その日の授業で習った内容の3 TRIAL問題に取り組む。 →定期的（1ヶ月に1～2回）に提出する。
週末：週末課題で指定されたLEGENDの問題に取り組む。 →週明けに提出する。小テストも行う。
長期休業：学期で学習した内容に関する課題に取り組む。 →休業明けに提出する。テストも行う。
数学は復習が最も重要です。問題を一定期間おいて何度も解き、解法を習得することが必要です。

8 担当者からの一言

授業内容は極力その日のうちに理解するように心がけてください。わからないことがある場合は授業中に質問するか、休み時間や放課後を使って遠慮なく先生方へ質問してください。そして、何より大切なことは、わからないところを自分で時間をかけてしっかり考えることです。

(担当：高橋 岳志)

令和7年度シラバス（ 数学A ） 学番50 新潟県立小千谷高等学校

教科(科目)	数学A	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	新編 数学A(数研出版)				
副教材等	3TRIAL 数学I+A(数研出版)、NEW ACTION LEGEND 数学I+A（東京書籍）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- （1）数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- （2）数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- （3）数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 指導の重点

- ①基礎的・基本的な知識及び技能を着実に身に付けることを目指す。
- ②事象を数学的に考察する能力を培うことを目指す。
- ③数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てます。
- ④数学を通して、粘り強く物事に取り組む態度を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけている。	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、課題考査の分析 ・小テストの分析 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、課題考査の分析 ・小テストの分析 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の取組の観察 ・提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
9 10	※ 数学Ⅰ「第2章 集合と命題」の後に学習する。			
	第1章 場合の数と確率	第1節 場合の数 1 集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列 4 組合せ 第2節 確率 5 事象と確率 6 確率の基本性質 7 独立な試行と確率 8 条件付き確率 9 期待値	15 21	・定期考査、課題考査 ・小テスト ・週末課題の取り組み状況 ・問題集の取り組み状況
12 1	※ 数学Ⅰ「第4章 図形と計量」の後に学習する。			
	第2章 図形の性質	第1節 平面図形 1 三角形の辺の比 2 三角形の外心・内心・重心 3 チェバの定理・メネラウスの定理 4 円に内接する四角形 5 円と直線 6 2つの円 7 作図	20 8	・定期考査、課題考査 ・小テスト ・週末課題の取り組み状況 ・問題集の取り組み状況

		第2節 空間図形		
		8 直線と平面		
		9 空間図形と多面体		

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

平日：その日の授業で習った内容の3 TRIAL問題に取り組む。 →定期的（1ヶ月に1～2回）に提出する。
週末：週末課題で指定されたLEGENDの問題に取り組む。 →週明けに提出する。小テストも行う。
長期休業：学期で学習した内容に関する課題に取り組む。 →休業明けに提出する。テストも行う。
数学は復習が最も重要です。問題を一定期間おいて何度も解き、解法を習得することが必要です。

8 担当者からの一言

授業内容は極力その日のうちに理解するように心がけてください。わからないことがある場合は授業中に質問するか、休み時間や放課後を使って遠慮なく先生方へ質問してください。そして、何より大切なことは、わからないところを自分で時間をかけてしっかり考えることです。

(担当：小飯塚邦夫)

教科(科目)	理科(物理基礎)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	数研出版『高等学校新編物理基礎』				
副教材等	数研出版『リードLightノート物理基礎』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

3 指導の重点

① 物体の運動と様々なエネルギーの基本的な事項についての理解を目指す。 ② 物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能の習得を目指す。 ③ それらを的確に表現できることを目指す。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて関心をもち、意欲的に探究している。	物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現できる。	身の回りの物理現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けている。

5 評価基準と評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言発表への取組の観察 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4 5	物理量の扱い方 運動の表し方	10	測定値と有効数字 科学的表記法 速度 加速度 落体の運動	・物理で扱う値は測定値であり誤差を含むことから、有効数字の必要性和計算のやり方を正しく理解する。 ・グラフから変位・速度・加速度を読み取り、数式から未知数を求めその意味を考察する。 ・自由落下の実験に積極的ににかかわり、レポートを仕上げる。	a b c	定期考査 小テスト 提出物
6 7	運動の法則	14	力とそのはたらき 力のつりあい 運動の法則 摩擦を受ける運動 液体や気体から受ける力	・注目する物体にはたらく力を理解し、つり合いの式を立てることができる。 ・慣性の法則、運動方程式、圧力、浮力を求める式を理解でき、式の運用が正しくできる。 ・「浮力」に関しての探究活動をして学習内容の理解を深め、物理的探究能力を身につけている。	a b c	定期考査 小テスト 提出物
8 9	仕事と力学的エネルギー	9	仕事 運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギーの保存	・仕事とエネルギーの相関関係を正しく理解する。 ・力学的エネルギー保存則が成り立つための条件を正しく判断し、未知数を求めることができる。	a b	定期考査 小テスト 提出物
10	熱とエネルギー	7	熱と物質の状態 熱と仕事	・温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量および熱と仕事の関係を正しく理解する。 ・熱平衡、熱の移動、熱量の授受の関係を正しく判断し、熱量保存を定式化できる。	a b	定期考査 小テスト 提出物
11	波の性質	6	波と媒質の運動 重ね合わせの原理	・波の基本量を理解し、波のグラフを読み取り表現できる。 ・与えられた基本量を判断し、正しくグラフに描写することができる。	a b	定期考査 小テスト 提出物
12	音	6	音の性質 発振体の振動と共振・共鳴 気柱共鳴実験	・波特有の現象が音で同再現されるのかを理解する。 ・弦や気柱に生じる定在波の波長を図から導くことができる。	a b	定期考査 小テスト 提出物
1	電気	6	電気の性質 電流と電気抵抗 電気とエネルギー	・電気の基本量や基礎知識を正しく理解する。 ・発生するジュール熱を導体内の自由電子と陽イオンのふるまいから定性的に捉え説明できる。	a b	定期考査 小テスト 提出物

2	電気	6	磁場と交流	・クリップモーター製作をとおり、	c	定期考査
3	物理学と社会		エネルギーの利用	モーターの仕組みを理解する。	a	小テスト
				・エネルギー資源、それらの長所と		提出物
				短所を理解する。		

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・定期考査ごとにリードlightノートの取組を点検します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

物理は自然現象に潜む法則を発見し、それを未知の現象の解明に適用していく学問です。17 世紀のニュートン以降、物理学は自然への探求活動とともに実験を通して発展し、その成果は科学技術の革新をもたらしました。高校では既に発見された法則をもとにして、力学や電磁気学など、分野ごとに体系づけられた理論について学習していきます。先人たちの知恵を学び、新たな視野を広げていきましょう。

教科(科目)	理科(生物基礎)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	数研出版『高等学校生物基礎』				
副教材等	数研出版『改訂版リードLightノート生物基礎』， 第一学習社『新課程二訂版スクエア最新図説生物』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
--

3 指導の重点

① 基本的な生物現象についての理解を目指します。 ② 生物現象を科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能の習得を目指します。 ③ それらを的確に表現できることを目指します。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基	観察、実験などを行い、科学的に探究できるようにしている。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けている。

本的な技能を身に付けている。		
----------------	--	--

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにしている。	観察、実験などを行い、科学的に探究できるようにしている。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けるようにしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4 ～ 5	生物の特徴	5 生物の多様性と共通性	生物は多様でありながら、共通性をもっていることを理解する。生物の共通性と多様性は、生物の進化の結果であることを理解する。顕微鏡とミクロメーターを使用して細胞の観察を行う。	a	提出物 (記述の点検)
		2 エネルギーと代謝	生命活動にはエネルギーが必要であることを理解する。細胞の生命活動のエネルギーはATPの形で供給されることを理解する。	b c	提出物 (記述の確認) 学習内容をノート・レポートにまとめさせたり、学習内容についてまとめたことを発表させたりする。
5	中間考査	1		a, b	
5 ～ 6	遺伝子とのはたらき	4 呼吸と光合成	呼吸や光合成によってATPが供給されることを理解する。生命活動は化学反応であり、酵素によって、生体内で必要な化学反応が進行することを理解する。	a b	提出物 (記述の点検) 提出物 (記述の確認)
		4 遺伝情報とDNA	DNAは2本のヌクレオチド鎖からなる二重らせん構造をしていることを理解する。遺伝情報はDNAの塩基配列にあることを理解する。	c	学習内容をノート・レポートにまとめさせたり、学習内容についてまとめたことを発表させたりする。
		4 遺伝情報の複製	DNAが、半保存的に複製されることを理解する。細胞周期		

		と分配	の進行に伴って、DNAが正確に複製され、2つの細胞に分配されることを理解する。		
6	期末考査	1		a, b	
7 ～ 9		6 遺伝情報の発現	タンパク質のアミノ酸配列は、DNAの塩基配列によって決まることを理解する。個体を構成する細胞は遺伝的に同一であるが、細胞の機能に応じて発現している遺伝子が異なることを理解する。	a	提出物 (記述の点検)
	ヒトの体内環境の維持	6 体内での情報伝達と調節	体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。自律神経系と内分泌系による情報伝達によって、からだの状態の調節が行われることを理解する。	b c	提出物 (記述の確認) 学習内容をノート・レポートにまとめさせたり、学習内容についてまとめたことを発表させたりする。
9	中間考査	1		a, b	
10 ～ 11		6 体内環境の維持の仕組み	ホルモンと自律神経のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。	a	提出物 (記述の点検)
		6 免疫のはたらき	からだに、異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。免疫と病気の関係や、免疫が医療に応用されていることについて理解する。	b c	提出物 (記述の確認) 学習内容をノート・レポートにまとめさせたり、学習内容についてまとめたことを発表させたりする。
11	期末考査	1		a, b	
12 ～ 2	生物の多様性と生態系	4 植生と遷移	植生の成りたちや相観について理解する。植生が時間の経過とともに移り変わっていくことを理解する。	a	提出物 (記述の点検)
		4 植生の分布とバイオーム	世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。気候条件によっては、遷移の結果として森林のほかに草原や荒原にもなることを理解する。	b	提出物 (記述の確認)
		4 生態系と生物の多様性	生態系の成りたちを理解する。生物どうしの関係が種多様性の維持にかかわっていることを理解する。	c	学習内容をノート・レポートにまとめさせたり、学習内容についてまとめたことを発表させたりする。
2	学年末考査	1		a, b	
2		4	生態系がもつ復元力について理		

～ 3		生態系のバランスと保全	解する。人間活動が生態系に及ぼす影響について理解する。生態系の保全の重要性について理解する。		
--------	--	-------------	--	--	--

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・定期考査ごとにリードlightノートの取組を点検します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

生物では多くの生物学用語が出てきますが、これらは複雑な生命現象を理解するのに必要だからです。とかく暗記科目と思われがちですが、用語を覚えるだけで終わりではありません。生命現象の仕組み、そして、その生命現象がどのような実験を経て解明されたかも学びます。その過程では数学や化学など他の科目で学習する内容も出てきます。広い視野をもって取り組みましょう。

教科(科目)	保健体育(体育)	単位数	3単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	大修館書店 新高等保健体育				
副教材等	大修館書店 新高等保健体育ノート				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

1 運動の合理的、計画的な実践を通して、知識と技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わう。 2 運動について自他の課題を発見し、合理的、計画的な解決にむけて思考判断する。 3 生涯にわたって継続して運動に親しみ、明るく活力のある生活を営む資質や能力を養う。
--

3 指導の重点

- 各領域において、運動の特性に触れさせ、その楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。 - 健康や安全についての理解を深め、内容や環境に応じて、適切に取り組むことができるようにする。 - 周囲に配慮し、仲間と協力しながら取り組むことができるようにする。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的な実践に主体的に取り組もうとしている。
--	---	---

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的な実践に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	・学習活動への取り組みの状況 ・提出課題の記述内容 ・スキルテストやゲームにおける動き	・学習活動への取り組みの状況 ・提出課題の記述内容 ・グループ活動での発言や指示の内容 ・活動における練習の工夫やゲームにおける動き	・学習活動への参加状況 ・学習活動への取り組みの状況 ・振り返りシート

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4 5	体づくり運動	16	集団行動 体づくり	・集合、整列、列の増減、挨拶 ・学校体操 ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
6	陸上競技	14	短距離走 長距離走	・100m走 ・男子 3000m ・女子 1500m	abc	タイム計測 授業の様子 (行動の確認)
7	体育理論	8	体育理論	○スポーツの発祥と成立 ○スポーツ文化の発展と現代社会 ○オリンピック・パラリンピックと国際社会 ○スポーツの経済効果とスポーツ産業 ○スポーツに求められる高潔さ ○持続可能性からみたスポーツと環境	abc	確認テスト 授業の様子 (行動の確認)

8 9 10	球技 (男子)	13	ソフトボ ール	○個人的技術 ・オーバースロー ・サイドスロー ・キャッチボール ・バッティング ○集団的技術 ・シートノック・送球練習 ○ゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
		9	バドミン トン	○個人的技術 ・オーバーヘッド ・フォアハンド ・バックハンド ・サーブ ○ストローク ・ハイクリア・ドロップ ・ヘアピン・スマッシュ ・ロブ・プッシュ ○ゲーム ・シングルスゲーム ・ダブルスゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
	器械運動 (女子)	8	マット運 動 跳び箱運 動	○マット運動 ・前転、後転 ・側転 ・ロンダート ・倒立前転 ○跳び箱運動 ・開脚跳び ・台上前転	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
	器械運動 (男子)	12	マット運 動 跳び箱運 動	○マット運動 ・前転、後転 ・側転 ・ロンダート ・ハンドスプリング ○跳び箱運動 ・開脚跳び ・台上前転 ・前方倒立回転跳び	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
11	球技 (女子)	8	ソフトボ ール	○個人的技術 ・オーバースロー ・サイドスロー ・キャッチボール ・バッティング ○集団的技術 ・シートノック・送球練習 ○ゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)

12		8	卓球	○個人的技術 ・フォアハンドストローク ・シェークハンド ・ツッツキ ・カットサーブ ○ゲーム ・シングルスゲーム ・ダブルスゲーム		
	球技 (男子)	12	バレーボ ール	○個人的技術 ・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス ・スパイク ・ブロック ・サーブ ○集団的技術 ・三段攻撃 ・二段攻撃 ・時間差攻撃 ○ゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
	球技 (女子)	8	バレーボ ール	○個人的技術 ・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス ・スパイク ・ブロック ・サーブ ○集団的技術 ・三段攻撃 ・二段攻撃 ・時間差攻撃 ○ゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
		8	バドミン トン	○個人的技術 ・オーバーヘッド ・フォアハンド ・バックハンド ・サーブ ○ストローク ・ハイクリア・ドロップ ・ヘアピン・スマッシュ ・ロブ・プッシュ ○ゲーム ・シングルスゲーム ・ダブルスゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
	球技 (男子)	12	バスケット ボール	○個人的技術 ・パス ・キャッチ ・ドリブル ・シュート ○集団的技術 ・マンツーマンディフェンス ・ゾーンディフェンス ○ゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
1						
2						
3						

球技 (女子)	9	バスケットボール	○個人的技術 ・パス ・キャッチ ・ドリブル ・シュート ○集団的技術 ・マンツーマンディフェンス ・ゾーンディフェンス ○ゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
球技 (女子)	9	卓球	○個人的技術 ・フォアハンドストローク ・シェークハンド ・ツッツキ ・カットサーブ ○ゲーム ・シングルスゲーム ・ダブルスゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)

計 96 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

振り返りシート

8 担当者からの一言

- ① 「できるできない」だけではなく、「できるように励むこと」が評価に大きく関わるため、授業については積極的に活動すること。
- ② 授業はチャイムと同時に開始するので、着替えや活動場所への移動は休み時間内に完了しておくこと。
- ③ 体育の授業は出席してしっかり参加することを前提とする。体調不良の場合や怪我で参加できない場合は、担当者に相談し判断する。見学の際は見学届けの記入をすること。

教科(科目)	保健体育(保健)	単位数	1 単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	大修館書店 新高等保健体育				
副教材等	大修館書店 新高等保健体育ノート				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

保健の見方、考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質、能力を育てる。

3 指導の重点

- ・健康と日常の生活行動が密接に関連していることを理解させる。
- ・現代社会においては、心の健康を保持増進することが重要であることを理解させる。また、そのために身に付けておくべき知識や方法等について理解させる。
- ・交通安全には個人、環境、車両などの要因が関連していること及び車両を運転するにあたって要求される資質や責任等について理解させる。
- ・日常的な応急手当ての方法、心肺蘇生法及びAEDの活用法について理解させる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。	個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康的な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	・学習活動への参加状況 ・学習活動への取り組みの状況 ・筆答試験・提出課題等 などから、評価します。	・学習活動への参加状況 ・学習活動への取り組みの状況 ・筆答試験・提出課題等 などから、評価します。	・学習活動への取り組みの状況 ・提出課題等 などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観 点	評価方法
4 5 6 7	1. 現代社会と健康	10	新高等保健体育	1 日本における健康課題と変遷 2 健康の考え方と成り立ち 3 ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり 4 健康に関する意思決定・行動選択 5 現代における感染症の問題 6 感染症の予防 7 性感染症・エイズとその予防 8 生活習慣病の予防と回復 ・個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解する。 ・課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断し、それらを他者に伝えることができる。	abc	授業の様子 (行動の確認) 保健ノート 授業プリント (記述の点検)
8 9 10 11 12	1 学期末考査		新高等保健体育	9 身体活動・運動と健康 10 食事と健康 11 休養・睡眠と健康 12 がんの予防と回復 13 喫煙と健康 14 飲酒と健康 15 薬物乱用と健康 16 精神疾患の特徴 17 精神疾患への対応 ・個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解する。 ・課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断し、それらを他者に伝えることができる。	abc	授業の様子 (行動の確認) 保健ノート 授業プリント (記述の点検)
	2 学期末考査	13				

1	2. 安全な社会生活		新高等保健体育	1 事故の現状と発生要因 2 交通事故防止の取り組み 3 安全な社会の形成 4 応急手当の意義と緊急医療体制 5 心肺蘇生法 6 日常的な応急手当	abc	
2				・個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解し技能を身に付けている。		授業の様子 (行動の確認)
3	学年末考査	9		・課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断し、それらを他者に伝えることができる。		保健ノート 授業プリント (記述の点検)

計32時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

保健ノート・授業プリント

8 担当者からの一言

- ① 教科書や副教材を中心に各単元とも知識・理解に重点を置き授業を進めるが、実践力・課題解決能力を身につけるため、実習・課題解決学習等も行う場合がある。
- ② ノートをとる際は、ただ板書事項を写すだけでなく、気付いたことや考えたこと、他の人や先生の発言の中から大切なことを記入するなどの工夫をする。
- ③ 疑問をそのままにしてしまうことは、健康にとってとても危険である。進んで質問したり、積極的に調べたりして、解決する努力する。

教科(科目)	芸術（音楽Ⅰ）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	MOUSA1（教育芸術社）				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

3 指導の重点

- （1）音楽を演奏する上で、最低限必要な知識と技術を学ぶ。様々なアプローチから技術を身につけていく。
- （2）楽器を使用した実技や歌唱を中心に、表現の基礎から応用までを行う。自分たちで創意工夫を加えることで、表現力を身につけていく。
- （3）実技においても常にお互いの音を聴きあうことで、感受性を身につけ、様々な文化を理解する基礎を身につけていく。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
固有の雰囲気や表情、味わいなどを感じ取りながら自己のイメージや感情と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりをとらえ、理解することができる。	音や音楽に対する自己のイメージを膨らませたり、他者のイメージに共感して音楽を形作っている要素の働き方などを試行錯誤しながら表した音楽表現について考えどのように音楽で表現するかについて表現意図を持っている。	表現及び鑑賞の学習において生徒一人一人が自らの考えを他者と交流したり互いの気づきを共有し感じ取ったことなどに共感したりしながら個々の学びを深め音楽表現を生み出したり音楽を評価して良さや美しさを味わい、聴いたりしようとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・実技テスト ・鑑賞レポート提出 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・実技テスト ・個人指導時の取り組みの観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・実技テスト ・創作による作品 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	歌唱	6	歌唱	校歌 発声 「少年時代」「世界に一つだけの花」 イタリア歌曲「カロミオベン」 ドイツ歌曲「野ばら」	6	実技テスト
5	器楽	8	鑑賞	鑑賞「指揮者について」 「オーケストラについて」 「吹奏楽について」 「合唱について」 「邦楽について」 「能について」	8	
6	鑑賞 器楽	6	器楽	アルトリコーダー 「オーラリー」 「アメージンググレース」 「カントリーロード」	6	実技テスト 感想等まとめたプリント提出
		2 4	器楽	ギター「雨に濡れても」 「禁じられた遊び」	2 4	
7		2	鑑賞	合唱映画「コーラス」	2	実技テスト
		6	器楽	リコーダー二重奏 「ラバースコンチェルト」	6	
8	西洋音楽史	4	歌唱	歌唱2重唱 「楓」	4	感想等まとめたプリント提出
		10	器楽	ギター「イパネマの娘」 「風になりたい」	10	
9			器楽	クラッキング二重奏 「ピタゴラス音楽理論」		実技テスト
10			鑑賞	「パチカン」 「グレゴリオ聖歌」 「モンテヴェルディ」 「バッハとヘンデル」 「ハイドンとモーツァルト」 「ベートーヴェンとシューベルト」 「ベルリオーズとブラームス」		
11	器楽	5	器楽	バイオリン基礎 篠崎バイオリン教本より バイオリン	5	
12		5		「パッヘルベルのカノン」	5	
1 2	民族音楽	4	鑑賞	ケルト音楽 トルコ、インドネシア、インド、モンゴル、スペイン、ボサノバ	4	作品提出
3	創作	2	創作	8小節のメロディ創作	2	

7 課題・提出物等

特にありません

8 担当者からの一言

声楽、器楽、音楽史、鑑賞等幅広く取り組みます。筆記用具、教科書、アルトリコーダーを持ってくる下さい。
なお、アルトリコーダーを持っていない人は学校のものを貸せますので、購入する必要はありません。

(担当：鈴木)

令和7年度シラバス（ 美術Ⅰ ） 学番50 新潟県立小千谷高等学校

教科(科目)	芸術（美術Ⅰ）	単位数	2単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	日本文教出版「高校生の美術Ⅰ」				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

3 指導の重点

- (1) 授業を通して基本的な知識や表現技術を身に付け、主体的な学習活動ができるような態度を養う。
- (2) 表現活動を通して身に付けた思考力・判断力・表現力能力を将来の社会生活に応用していけるような能力を育てる。
- (3) 美術文化についての理解を深め、生涯にわたり美術を愛好する豊かな心情を育てる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 - 意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している	造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、創造的な発想と価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めている	美術や美術文化と豊かに関わり、主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、提出された課題の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、提出された課題の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、提出された課題の確認などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
---	-----	-------------	-----	------------	----	------

4	絵画/彫刻/ デザイン 絵画/彫刻	2「表現/鑑賞」 10「表現」	教科書 デッサン	配布資料および教科書を使ったリエンテーション デッサンの基礎(幾何形体)	c	課題の提出
5					a b c	
6	絵画	16「表現」	油 彩	静物油彩画(F10号)		課題の提出
7					a b c	
8						
9	鑑賞	4「鑑賞」	DVD 鑑賞	DVD鑑賞および感想文	b	感想文の提出
	絵画/彫刻	4「表現」	デッサン	自画像デッサン	c	課題の提出
10	絵画	16「表現」	油 彩	人物油彩画(F10号)	a b c	課題の提出
11					a b c	
12						
1	デザイン	6「表現」	色の基本	色彩構成の基礎	a b c	課題の提出
2						
3	デザイン	6「表現」	プリント	色彩構成の応用(模写および配色)	a b c	課題の提出

計64時間(55分授業)

7 課題・提出物等

- 1、課題の提出は必ず定められた期限を厳守して下さい。

8 担当者からの一言

- 1、授業の際に使用する用具は共同購入・共同使用が基本となりますので、用具の適切な使用方法および手入れの方法を必ず身に付けて下さい。
- 2、実習が中心の授業になりますので、汚れても良い衣服などを準備して授業に出席して下さい。

(担当：山田)

令和7年度シラバス（書道Ⅰ） 学番50 新潟県立小千谷高等学校

教科(科目)	芸術（書道Ⅰ）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	教育図書 『書Ⅰ』、『書Ⅰプライマリーブック』				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力育成することを目指す。

3 指導の重点

書道の幅広い活動を通して、生涯こわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけている。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯こわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養っている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、毎回の作品提出などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、毎回の作品の提出と学習の記録の記載などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、授業ごとの学習の記録などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
---	-----	-------------	-----	------------	----	------

4	＜書への導入＞					
	・書写と書道	4		・書写と書道の相違	4	【主体的に学習に取り組む態度】 新しい教科書に対し新鮮な気持ちで臨んでいる。
5	・姿勢・執筆法			・姿勢・執筆法の基本理解		
	・用具・用材	6		・用具・用材の種類、性能、製造等を学ぶ	6	種々の筆や用具に驚きを持って接している。
6	・学習内容と心構え			・授業方針、受け方を知る		【思考・判断・表現】 新しい毛筆に慣れ自らの意志で運筆できる。
	・表現と鑑賞			・「書」の鑑賞		【鑑賞の能力】 既成概念ではなく心で感じ取ることができる。
6	＜漢字の書＞			・古典の意義、拓本について学ぶ	10	【主体的に学習に取り組む態度】 拓本に興味を示し積極的に拓本取りができる。
	・古典について	10		・臨書学習により基本的な点画や線質の表し方、用筆法・運筆法を学ぶ		古典に新鮮な気持ちで対峙できる。
7	・楷書の学習			・各古典の表現の違いを理解しその特徴を人物とともに鑑賞する	4	【思考・判断・表現】 楷書4種、行書それぞれの運筆・用筆法で表現できる。
	・行書の学習	4				【鑑賞の能力】 各古典の良さ・美しさを味わい、その特徴を把握できる。
8	・創作活動			・古典臨書により行書の特徴を踏まえ用筆法・運筆法を学ぶ		【主体的に学習に取り組む態度】 より深めたい古典のスムーズな選択ができる。
				・学習した古典を一つ選び創作活動により表現力を深める		【思考・判断・表現】 その用筆、運筆を深めている。
9						【知識・技能】 古典に自分らしさを加えている。
						【関心・意欲・態度】 新しい書体に新鮮に対峙し身の回りの書に思いをはせることができる。
10	・隷書に親しむ	4		・隷書の特徴を理解し、用筆・運筆法を学ぶ	4	【思考・判断・表現】 逆筆、結体等独特な用筆法で表現できる。
				・暮らしの中での隷書の存在感を知る		【鑑賞の能力】 隷書美、良さを味わえる。
11	＜篆刻＞					【主体的に学習に取り組む態度】 文字の起源、変遷等を興味深く学んでいる。
	・氏名印をほる	10		・書体の変遷について学ぶ	10	【思考・判断・表現】 文字選択構成に工夫をしている。
12	＜仮名の書＞			・篆書表現及び印刀での運刀を学ぶ		【主体的に学習に取り組む態度】 仮名の成立、意義、素直らしさに心惹かれ日本の文化に思いをはせることができる。
	・基本	2		・仮名書の美を感受する	2	【思考・判断・表現】 創作の準備と手順を知る
12	・「いろは」単体	4		・仮名の成立と変遷を学ぶ	4	
	・連綿			・日本の伝統文化の一端を知る		
12	・和歌一首			・仮名独特の用筆に慣れるよう基本用筆を習得する		
				・リズムカルで流動的な運筆を学ぶ		
12	＜漢字仮名交じりの書＞	8		・心の表現の可能性を感じ取る	8	
	・思いと言葉を紡ぐ					
12	・古典で学ぶ					

	・自分らしい表現を求めて ・相互鑑賞			・古典表現の復習 ・自分に合った表現を模索 ・自己の思いを伝え合い鑑賞しあう		小筆による繊細流動的、リズムカルな運筆で表現できる。 【鑑賞の能力】 日本独自の書美を感じ取ることで、 、伝統文化の認識を新たにできる。
1	<修了制作> ・暮らしの中の書	2		・身の回りに存在する書の存在その意義を認識	2	【主体的に学習に取り組む態度】 自己を見つめ自己表現に意欲的に取り組める。
2	・書のあるプレート制作	4		・撰文及びふさわしい表現の模索	4	【思考・判断・表現】 学習をした種々の表現を復習し自己の心情にあった表現を模索できる。
3	・表札制作	6		・刻字の意義、手順を学ぶ ・ふさわしい書表現をする ・彫り、着色等を学ぶ	6	【創造的な書表現の技能】 更に独自の要素を加え効果的な表現ができる。 【鑑賞の能力】 他者の心情を感じ取ることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 暮らしの中の書の観点で主体的に取り組む創造活動の喜びを味わうことができる。 積極的に刻字に挑戦している。 【思考・判断・表現】 表現の諸要素を感受し意図にあった表現の工夫がなされている。 【知識・技能】 基本を元に効果的な独自の表現ができる。

計64時間(55分授業)

7 課題・提出物等

実習につき単元によっては授業時間内に作品を仕上げる出来ない者が出てくることがおおいにあるため、それらの生徒放課後等に実施してもらうことがある。校内で課題を消化できない事情がある場合校外での活動を課す。

8 担当者からの一言

授業にしっかり集中し、良い作品を創作していきましょう。

(担当：中村)

教科(科目)	外国語 (英語コミュニケーションI)	単位数	4単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	PANORAMA English Communication I (大修館)				
副教材等	同教科書 Workbook、同教科書 予習・復習ノート、 Mileage Reader (いっずな書店) , 英単語ターゲット1200 (旺文社)、Focus on Listening (エミル出版)、総合英語 be 4th Edition (いっずな書店)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

(1) 日常的な話題や社会的な話題について、支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握し、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 (2) 日常的な話題や社会的な話題について、支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握し、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 (3) 日常的な話題や社会的な話題について、支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやりとりを続けることができるようにする。 (4) 日常的な話題や社会的な話題について、支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝えることができるようにする。 (5) 日常的な話題や社会的な話題について、支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。

3 指導の重点

①確かな学力を身につけるために、予習→授業→復習のサイクルを徹底し、平日は学年＋1時間、休日は学年＋2時間を全員がやりきることを目指します。 ・予習…辞書なしで読み、大まかに意味をつかむ。初見の文章を読み切ること慣れる。 ・授業…定着させるための練習と活用、他者との意見交換の場とする。定着には音声の真似から入り何回も音読する。 覚えたい語こそ表現活動やALTの先生との授業で使ってみる。

・復習…繰り返しの音読、短期記憶にとどまらない語彙蓄積は家庭学習で行う。

②たくましく生き抜くための力を身につけるために、与えられた課題だけでなく自分から課題を設定し、得意を伸ばし不得意を少しずつ克服することを目指します。

・日頃の課題や家庭学習は自分の意志で行うことで充実させる。やりたい人は時間を見つけ、自分の課題をどんどん進めていく。語学は触れる時間、出会う回数が多いほど上達する。学校の教材以外にもテレビ、ラジオ講座、洋楽、映画、インターネットなどで英語に触れる機会を増やしてほしい。

③英語は協働作業の機会が多い。ペアの相手、グループのメンバーのおかげで協働学習が成り立つ。活動の中で色々な人の意見や考えに触れて視野を広げることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報や考えを聞く、読む、話す[やり取り・発表]、書くために必要となる語彙や表現を理解している。日常的な話題や社会的な話題についての説明を読み取っていたり、情報や考えを理由とともに伝えたりする技能を身につけている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、日常的な話題や社会的な話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えている。世界の問題を説明するために、諸問題の書かれた説明文を読んで、概要や要点を捉えている。	日常的な話題や社会的な話題について、深く思考し、判断して、自分の意見や考えにまとめ、表現するための知識・態度を身に付けようと粘り強く取り組んでいる。また、自らの学習を振り返り、調整しようとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・パフォーマンステストにおける活動の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・パフォーマンステストにおける活動の観察 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	L1 ことばには人を勇気づける力があることについて理解を深め、生きる上での言葉の大切さについて考える。	12 S	Words to Live By	・夢を持つことの力、努力の大切さについて理解する。 ・時制の使い方を理解する。 ・人物について説明する。	12	・定期考査 ・課題提出
5	L2 英語が役立つ場面について理解を深め、英語を学ぶ意義について考える。	12 W	My English Experience	・高校生の英語体験談の概要を理解する。 ・助動詞、受動態、動名詞の使い方を理解する。 ・英語を使ってしてみたいことを書く。 ・猫の生態や人間との関係について理解する。	12	・定期考査 ・課題提出

6	L3 猫と人間の関わりや猫の生態について理解を深め、ペットとしての動物について考える。	12 R	Our Feline Friends	- 不定詞、SV0、接続詞の使い方を理解する。 - 好きなペットについて簡潔に書く。	12	- 定期考査 - 課題提出
7 8	L4 社会の変化と職業の関係について理解を深め、将来の職業選択について考える。	12 W	Work in the Future	- 職業の変化について理解する。 - 将来の職業で大切なスキルについて理解する。 - 現在完了形、SVCについて理解する。 - 職業選択における優先順位について書く。	12	- 定期考査 - 課題提出
9	L5 日本や海外でのお米の文化について理解を深め、効果的なプレゼンテーションの仕方について考える。	13 S	My Favorite Food: Rice	- 日本における米作り、海外における米の消費や食べ方について理解する。 - 比較表限、SV0+to 不定詞、SVOC、S+ be + 形容詞 that を理解する。 - プレゼンテーションの内容についてやりとりする。	12	- 定期考査 - パフォーマンステスト - 課題提出
10	L6 人の運命的な経験について理解を深め、人の心の動きや行動について考える。	12 W	A Long Way Home	- 外国人の先生におすすめの食べ物を紹介する。 - 主人公の身に起きた事件の内容を理解し、登場人物の心情についてやり取りする。 - It is ~ for 人 to, 前置詞句や分詞の修飾表現の使い方を理解する。 - 読んだ本や観た映画について概要を書く。	12	- 定期考査 - 課題提出
11	L7 顔の表情の持つ意味について理解を深め、人と人とのコミュニケーションの在り方について考える。	14 L	Can You Read Faces?	- 顔の表情の研究概要や対面コミュニケーションの意義について要点を理解する。 - 関係代名詞、疑問詞+to 不定詞、間接疑問の使い方を理解する。 - ウェブサイトの音声から必要な情報や発表の要点をメモする。	14	- 定期考査 - 課題提出
12	L8 スペシャリストの仕事に対する考え方について理解を深め、将来の生き方について考える。	13 R	Make People Shine: Choreo-director, MIKIKO	- スペシャリストとその仕事についての説明文を読んで要約を完成したり、仕事に関する身近な話題についてやりとりする。 - 仮定法、使役動詞、知覚動詞、seem/appear + to 不定詞の使い方を理解する。 - Eメールを理解し、内容を整理する。	14	- 定期考査 - 課題提出
1	L9 人類と飛行の歴史について理解を深め、人間の努力と文明の発達について考える。	14 L	Our Desire to Fly	- 人類と飛行の歴史を読み取り、要点をまとめてやり取りする。 - 関係代名詞 what, 関係副詞、助動詞の受動態の使い方を理解する。 - 展示物アナウンスやツアーのガイドを聞いて要点をまとめる。	14	- 定期考査 - 課題提出
2 3	L10 環境保護への人間の取り組みについて理解を深め、自分たちに今何ができるかを考える。	14 S	Loving the Earth	- 環境保護に関する話題について、科学者の貢献を理解し、その課題についてやりとりする。 - 過去完了形、SVC(分詞)の使い方を理解する。 - ミニディベートで理由、具体例とともに主張を発表する。	14	- 定期考査 - パフォーマンステスト - 課題提出

計 128 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・毎週末の課題、毎週明けの単語テストの範囲は別途指示します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

1年次は、予習→授業→復習のサイクル、平日は学年＋1時間、休日は学年＋2時間の家庭学習の習慣をつけてください。与えられた課題をただやるだけでなく、自分に必要なことを考え、力を身につけるための時間を確保し、やり方を模索し、定着するまで反復するなど、自律的に学習する姿勢を身につけていきましょう。

「英語」は単なる語学ではなく、自分を表現し、自分の世界を広げるための手段です。科目を通して、見聞を深めて視野が広がることを望みます。(担当：矢久保)

教科(科目)	外国語（論理・表現Ⅰ）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年(文系・理系)
使用教科書	be English Logic and Expression I Clear (いりずな書店)				
副教材等	同教科書 Workbook・Grammar Book、総合英語 be 4th Edition (いりずな書店)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

(1) 日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用し、情報や考えを話し合ったり、やりとりを通して必要な情報を得たりすることができる。 (2) 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備といった支援を活用すれば、情報や考えを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。
--

3 指導の重点

① 確かな学力を身につけるために、予習→授業→復習のサイクルを徹底し、平日は学年＋1時間、休日は学年＋2時間を全員がやりきることを目指します。 ② たくましく生き抜くための力を身につけるために、与えられた課題だけでなく自分から課題を設定し、得意を伸ばし不得意を少しずつ克服することを目指す。 ③ 授業は協働作業の機会が多いです。ペアの相手、グループのメンバーとの協働学習に積極的にに関わり、活動の中で色々な人の意見や考えに触れて視野を広げることを目指します。プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートといった表現活動は社会に出てからも役立つスキルです。上達するには慣れることです。まずはやってみましょう。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

日常的な話題や社会的な話題における情報や考えを、話す[やり取り・発表]、または書くために必要となる語彙や表現を理解し、理由とともに伝えたりする技能を身につけている。	聞き手や読み手に自分の考えをよく理解してもらえるよう、情報や考えを理由とともに適切な表現で伝えている。世界の問題を説明するために、諸問題の書かれた説明文を読んで、概要や自分の意見を伝えたり、書いたりしている。	日常的な話題についての意見や考えを、習得したことを基に活用しようとしている。社会的な話題について聞いたり読んだりしたことを基に、相手に理解してもらえるように伝えようとしている。
--	--	--

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、自由英作文、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、自由英作文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、自由英作文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	L1【自己紹介】	3 S	Meeting People	・現在形、現在進行形 ・「あいづち」表現	3	・定期考査 ・課題提出
5	L2【休日・週末】	3 S	Holidays and Weekends	・過去形・過去進行形 ・「聞き直す」表現	3	・定期考査 ・課題提出
	L3【予定】	3 W	Making Plans	・未来を表す表現・未来進行形 ・「詳しい情報をたずねる」表現		
6	L4【旅行】	3 W	Travel	・現在完了形・現在完了進行形 ・「話を切り出す」表現	3	・定期考査 ・課題提出
	L5【学習・課外活動】	4 S	Study and Activities	・過去完了形・過去完了進行形・未来完了形 ・「同意を求める」表現		
	L6【食文化】	3 W	Food Culture	・助動詞 ・「お礼を言う」		
7・8	L7【学校生活】	3 S	School Life.	・助動詞 ・「理由をたずねる」表現	3	・定期考査 ・課題提出
	L8【日常生活】	3 W	Daily Life	・助動詞 ・「依頼を受け入れる・断る」表現	4	
	L9【交通問題】	3 S	Transportation Issues	・受動態 ・「話しかける」表現	4	

9	L10 【将来の活動】	3 W	Future Activities	・不定詞 ・「励ます」表現	4	・定期考査 ・課題提出
	L11 【健康】	3 S	Staying Healthy	・不定詞 ・「具合をたずねる」表現	4	
10	L12 【新しい製品】	3 W	New Products	・不定詞 ・「勧誘する」表現	4	・定期考査 ・課題提出
	L13 【趣味・関心】	3 S	Hobbies and Interests	・動名詞 ・「同じだと言う」表現	4	
	L14 【自然】	4 W	The World of Nature	・分詞 ・「感情を表す」表現	4	
11	L15 【トラブル・事故】	3 S	Trouble and Accidents	・分詞構文 ・「同情・共感を表す」表現	4	・定期考査 ・課題提出
	L16 【発明】	4 W	Inventions	・関係代名詞 ・「感想を表す」表現	4	
12	L17 【都市・町】	3 S	Cities and Towns	・関係副詞・複合関係詞 ・「感情を伝える」表現	4	・定期考査 ・課題提出
	L18 【生活環境】	3 W	Living Environment	・原級・比較級 ・「存在を伝える」表現	4	
1	L19 【社会問題】	3 S	Social Problems	・最上級 ・「提案する」表現	4	・定期考査 ・課題提出
2	L20 【願い事】	4 W	Making a Wish	・仮定法過去・仮定法過去完了 ・「したいことを伝える」表現	4	・定期考査 ・課題提出

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・毎週末の課題、文法単元ごとのテスト範囲は別途指示します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

1 年次は、予習→授業→復習のサイクル、平日は学年＋1 時間、休日は学年＋2 時間の家庭学習の習慣をつけてください。「英語」は単なる語学ではなく、自分を表現し、自分の世界を広げるための手段です。科目を通して、見聞を深めて欲しいと思います。作文やスピーチなどを通してコミュニケーションの技能や態度を身につけていきましょう。(担当：矢久保)

教科(科目)	情報（情報Ⅰ）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	情報Ⅰ(数研出版)				
副教材等	情報Ⅰサポートノート(数研出版)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。

2 学習目標

(1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。
--

3 指導の重点

情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させ、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技術を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間の関わりについて理解している。	事象を情報とその結びつきの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実習の分析 ・レポートの分析 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実習の分析 ・レポートの分析 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実習の分析 ・レポートの分析 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
1 学 期	第 1 編 情 報 社 会 の 問 題解決	14	第1章 情報とメディア A 情報とは何か B 情報源と情報の検証 C 情報とメディアの特性 D 問題解決のプロセス 第2章 情報社会における法とセキュリティ A 情報社会と法規・制度 B 個人情報の適正な利活用と保護 C 知的財産権 D 情報セキュリティ E 情報セキュリティ対策のための技術 F 情報セキュリティ対策への意識 第3章 情報技術が社会に及ぼす影響 A 情報技術の発展の光と影 B 情報技術の適切な活用	【 知識・技能 】 ・「情報」がもつ意味やはたらきについて理解している。 ・情報を評価・判断するための技能を身に付けている。 【思考力・判断力・表現力】 ・「情報」がもつ意味やはたらきについて考え、その結果を適切に表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・「情報」がもつ意味やはたらきについて関心をもっている。 【 知識・技能 】 ・情報社会を支える法規・制度について理解している。 ・情報に関する法規や制度が制定された背景や意義について理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ・法を遵守した判断や情報モラルに配慮した適切な判断ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報社会を支える法規・制度について意欲的に学ぼうとしている。	レポート 課題提出 期末考査
2 学 期	第 2 編 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン と 情 報 デ ザ イ ン	34	第1章 情報のデジタル表現 A アナログとデジタル B デジタル情報の表現 C 文字のデジタル表現 D 音のデジタル表現 E 画像のデジタル表現 F 動画のデジタル表現 G データの圧縮 第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴 A 通信とその進展 B マスコミュニケーションの進展 C 情報の発信とメディアの性質 第3章 情報デザイン A 情報を表現する方法 B ユニバーサルデザイン 第4章 プレゼンテーション A プレゼンテーションとは B プレゼンテーションの流れと注意点	【 知識・技能 】 ・アナログ情報とデジタル情報のちがいについて理解している。 ・デジタル情報の特徴について理解している。 ・コンピュータでデジタル情報を適切に扱うための技能を身に付けている。 【思考力・判断力・表現力】 ・アナログ情報とデジタル情報のちがいについて考え、適切に判断している。 ・デジタル情報の特徴や利点について考え、その結果を適切に表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・アナログ情報とデジタル情報のちがいや特徴について関心をもっている。	レポート
	第 3 編 コ ン ピ		第1章 コンピュータのしくみ A コンピュータの構成 B コンピュータのソフトウェア	【 知識・技能 】 ・コンピュータの基本的な構成につ	小テスト

	ユー タ と プ ロ グ ラ ミ ン グ		C コンピュータでの数値の内部表現 第2章 プログラミング A アルゴリズム B プログラミング言語とは C プログラミングの方法 第3章 モデル化とシミュレーション A モデル化 B シミュレーション	いて理解し、基本的な操作ができる技能を身に付けている。 ・コンピュータ本体のはたらきや補助記憶装置の種類や特徴などについて理解している。 ・CPUが命令を実行するしくみを理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ・コンピュータの中のCPUやメモリ、補助記憶装置の役割について考えている。 ・コンピュータの能力を適切に判断することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・コンピュータの本体や周辺装置に関心を持ち、積極的に活用しようとしている。	レポート 課題提出 期末考査
3 学 期	第 4 編 情 報 通 信 ネット ワー ク と デ ー タ の 活用	16	第1章 ネットワークのしくみ A コンピュータネットワーク B 通信プロトコル C パケット通信 D 通信の信頼性 E IP アドレスとドメイン名 F WWW のしくみと URL G 電子メールの送受信のしくみ H 情報の暗号化 第2章 データベース A データベース B ささまざまな情報システム 第3章 データの分析 A データのさまざまな形式 B データの収集方法 C データの種類と尺度水準	【 知識・技能 】 ・LAN, WAN, インターネットの構造, モバイル通信などに関する知識を身に付けている。 ・コンピュータをLANで接続するために必要な技能を身に付けている。 【思考力・判断力・表現力】 ・LANやインターネットなどのコンピュータによる通信とその影響について考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・LANやインターネットなどのコンピュータによる通信に関心を持ち、積極的に活用しようとしている。	レポート 課題提出 期末考査

計64時間(55分授業)

7 課題・提出物等

実習では、主体的に情報の収集、処理、表現に取り組む。
その日学習したことを定着させるために、ワーク等も用いて家庭で学習する。

8 担当者からの一言

情報通信技術（ICT）はこれからもますます発展し、社会は大きく変わっていきます。しかし、社会を「変える力」が技術だとしても、社会を「変える方向」は人々の意思で決まります。だからこそ、みなさんが情報技術について正しい知識をしっかりと学び、情報社会をより良い方向へ導ける存在に成長してくれることを期待します。
(担当：斉藤)